

## カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施方針）

理学研究科	<p>理学研究科（修士課程）では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施しています。</p> <p>生命科学の急速な進展に柔軟に対応するべく、分子科学・生物科学の視点から自然科学を探究することにより、自然科学に関する幅広い知識と技術を修得し、生命科学に対する総合的な解析力、思考能力を養うカリキュラムを編成しています。</p> <p>理学研究科（博士後期課程）では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施しています。</p> <p>分子科学・生物科学の視点から自然科学をより深く探究することが出来るように、自然科学に関する幅広い、より高度な知識と技術に基づく正確な判断力と緻密な思考力を修得し、先端・学際分野での独創的研究を立案・推進する能力を養うカリキュラムを編成しています。</p>
分子科学専攻	<p>理学研究科分子科学専攻（修士課程）では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施しています。</p> <p>(1) 物理的、化学的計測・解析を行い、機能性物質の設計、合成、機能評価技術を身に付けさせるとともに、学会、研究会等における発表能力を養うためのカリキュラムを設定します。</p> <p>(2) 高度な専門知識を教授する講義科目の開講をします。</p> <p>(3) 専門技術修得のための講座単位の少人数指導による特別研究の遂行をします。</p> <p>(4) 考察力、コミュニケーション能力の育成のための講座単位の少人数での輪講と、専攻を超えた研究科単位での公開発表会の実施をします。</p> <p>理学研究科分子科学専攻（博士後期課程）では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施しています。</p> <p>(1) 物理的、化学的計測、解析技術の開発・改良ができる能力、機能性化合物の設計、合成法の開発・改良ができる能力を身に付けさせるとともに、研究成果を英文論文として国内外の学会で発表する能力を養うためのカリキュラムを設定します。</p> <p>(2) 高度な研究技法を修得し、その改良、開発を行うことの出来る力を養うための少人数指導による特別研究の遂行をします。</p> <p>(3) コミュニケーション能力、発表能力、課題設定能力の育成のための講座単位の少人数での輪講と、専攻を超えた研究科単位での公開発表会の実施をします。</p>
生物科学専攻	<p>理学研究科生物科学専攻（修士課程）では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施しています。</p> <p>(1) 生命科学の様々な事象を解明する能力を備え、必要な基本的実験技術を修得し、研究計画に基づいて研究を遂行する能力を身に付けさせるとともに、学会等における発表能力を養うためのカリキュラムを設定します。</p> <p>(2) 最先端分野の専門知識や研究技能を教授する講義科目を開講します。</p> <p>(3) 専門技術修得のための講座単位の少人数指導を基にした特別研究を遂行します。</p> <p>(4) 考察力、コミュニケーション能力の育成に向けた講座単位の少人数での輪講と、専攻を超えた研究科単位での公開発表会を実施します。</p> <p>理学研究科生物科学専攻（博士後期課程）では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施しています。</p> <p>(1) 生命現象を分子レベルで解明するための専門的知識と研究技能を備え、研究計画を立案、自ら遂行できる能力を修得し、研究成果を英文論文として発表できる能力、国際的なコミュニケーション能力を養うためのカリキュラムを設定します。</p> <p>(2) 最先端の専門知識の教授をします。</p> <p>(3) 高度な研究技法修得のための少人数指導による特別研究の遂行をします。</p> <p>(4) 研究成果の発表能力、課題設定能力の育成に向けた少人数での輪講と専攻を超えた研究科単位での公開発表会の実施をします。</p>

## ディプロマポリシー（学位授与方針）

理学研究科	<p>理学研究科（修士課程）では、分子科学・生物科学専攻が各々の基礎科学分野に立脚しつつ、融和を図ることにより、生命科学に関する幅広い知識と専門的な研究開発能力を有する研究者・高度専門技術者となる人材の育成を目的とします。こうした人材を育成するために、以下の資質・能力を修得した者に学位を授与します。</p> <p><u>(1) 自然科学の基本原理の理解、それを基盤とした測定・解析技術(SS1)</u>  <u>(2) 基礎知識と実験技術を駆使した、自然現象の正確な判断、新たな本質的原理を抽出する緻密な思考力、さらに展開する応用力(SS2)</u>  <u>(3) 研究成果を社会に向けて発表できる能力(SS3)</u></p> <p>理学研究科（博士後期課程）では、分子科学・生物科学専攻が各々の基礎科学分野に立脚しつつ、融和を図ることにより、生命科学に関する幅広い知識と専門的な研究開発能力を有する研究者・高度専門技術者となる人材の育成を目的とします。こうした人材を育成するために、以下の資質・能力を修得した者に学位を授与します。</p> <p><u>(1) 知識と実験技術を駆使した、自然現象の正確な判断、新たな本質的原理を抽出する緻密な思考力、さらに展開する応用力(SH1)</u>  <u>(2) 自立した研究計画の立案とその研究遂行能力(SH2)</u>  <u>(3) 国際的なコミュニケーション能力を有し、研究成果を英文論文として世界に発信できる能力(SH3)</u></p>
分子科学専攻	<p>理学研究科分子科学専攻（修士課程）では、分子及び分子集合体の構造や性質を解析し設計できる能力を持ち、生命を含む幅広い現象を物理的・化学的視点から解く力を持った人材の育成を目的とします。こうした人材を育成するために、以下の資質・能力を修得した者に学位を授与します。</p> <p><u>(1) 物理的、化学的原理に基づく計測技術力や解析力(MS1)</u>  <u>(2) 物質の機能評価と新規化合物の合成ができる基本的実験技術力(MS2)</u>  <u>(3) 研究成果を学会、研究会等を通じて社会に向けて発表できる能力(MS3)</u></p> <p>理学研究科分子科学専攻（博士後期課程）では、分子及び分子集合体の構造や性質を解析し設計できる能力を持ち、生命を含む幅広い現象を物理的・化学的視点から解く力を持った人材の育成を目的とします。こうした人材を育成するために、以下の資質・能力を修得した者に学位を授与します。</p> <p><u>(1) 様々な自然現象、生命現象を解明していくために必要な計測技術と解析方法を開発・改良し、これを用いて本質的原理を導き出す事のできる力(DS1)</u>  <u>(2) 機能性化合物の設計、合成法の開発・改良ができる能力(DS2)</u>  <u>(3) 国際的なコミュニケーション能力を持ち、研究成果を英文論文として国内外の学会に発表できる能力(DS3)</u></p>

<p>生物学専攻</p>	<p>理学研究科生物学専攻（修士課程）では、生命科学分野のさらなる発展を担うため、生物学や基礎医学等の広範な分野で活躍できる知識や高い研究技能、並びに科学的思考能力を備えた人材の育成を目的とします。こうした人材を育成するために、以下の資質・能力を修得した者に学位を授与します。</p> <p><u>(1) 幅広い生命科学現象を解析する研究に必要な基本的実験技術(MB1)</u></p> <p><u>(2) ひとつの事象から本質的原理を抽出できる能力(MB2)</u></p> <p><u>(3) 研究成果を学会、研究会等を通じて社会に向けて発表できる能力(MB3)</u></p> <p>理学研究科生物学専攻（博士後期課程）では、生命科学分野のさらなる発展を担うため、生物学や基礎医学等の広範な分野で活躍できる知識や高い研究技能、並びに科学的思考能力を備えた人材の育成を目的とします。こうした人材を育成するために、以下の資質・能力を修得した者に学位を授与します。</p> <p><u>(1) 幅広い生命現象を解析する高度な研究技能(DB1)</u></p> <p><u>(2) ひとつの事象から本質的原理を抽出できる能力(DB2)</u></p> <p><u>(3) 研究計画の立案、自立した研究遂行能力(DB3)</u></p> <p><u>(4) 国際的なコミュニケーション能力を有し、研究成果を英文論文として世界に発信できる能力(DB4)</u></p>
--------------	---

※科目シラバスの「授業の目的」に記載されている番号は、ディプロマポリシーの関連番号です。